

# 横浜市立東山田中学校 第140回学校運営協議会 記録

日時：平成29年5月26日（金）17：00～

場所：東山田中学校コミュニティハウス

## ○議題

### 1. 報告事項

#### ア、各学年校外学習報告

- ・1学年 自然教室（千葉・岩井海岸）  
担当：\*岩井海岸で5年目、新たに金田みたて海岸での潮干狩り体験を行った
- ・2学年 横浜遠足（山手・みなとみらい・中華街方面）  
担当：\*「横浜を知る」目的に沿って無事班別行動を行うことができた
- ・3学年 修学旅行（関西・京阪神方面）  
担当：\*奈良、京都の歴史や大阪の特徴的な文化等を肌で感じる事ができた  
質疑：  
→宿泊学習や校外学習の行先については、地理的条件、時間的な効率にコスト面を考慮して決定しているが、毎年度ごとに部分的な内容の見直しなどを行っている

#### イ、保健安全指導部との懇談

- ・5月2日 幼保小中同時避難訓練・引き取り訓練の振り返り  
担当：\*引き取りの流れをメインとして行ったが、実際の場面を想定したとききょうだいを引き取る順番や学校留め置きの際の段取り、地域と連絡を取る手段等を、学校や家庭が具体的に考えておく必要がある
- ・今年度の計画（防災教育・食育・保健教育）－ 資料提示

#### ウ、熊本派遣報告

- 担当：\*熊本出身者の養護教諭として平成28年7月から翌年3月まで派遣
  - \*平成28年4月の震災で避難所となった県内の学校は約57%
  - \*各校への臨時のスクールカウンセラーの派遣
  - \*年度はじめの発災による児童・生徒安否確認や情報収集の難しさ
  - \*休校中の学校施設設備や環境衛生管理の状況
  - \*有事の際の危機管理マニュアルの整備の重要性
  - \*学校再開後の児童・生徒の健康観察や相談活動の状況
- 質疑：  
→学校避難所の運営については、地域の人のリーダーシップ、学校職員との連携  
→子どもの心のケアについては、学校・家庭・地域の様々な大人の支え、声掛けが子どもの安心につながったが、一方で、震災によって、各自が元々抱えていた心の課題が顕在化し、生徒指導案件や子どものケガの増加に関連付いていたと感じられた

#### エ、学校地域支援本部

- 担当：\*やまたろうクラブの参加状況、学齢児童の参加の在り方について見守りと検討

\*J クラブについては、ボランティアの人数不足の課題があり、ボランティア養成講座を学習支援に特化した内容での実施を検討

\*小学校との情報交換として、まちのおたからマップの活用、やまたろうと一緒にやってみたいことリスト作り、食育の取組として地元食材による「東山田定食」の考案希望、個別支援級やプールの見守りなどのボランティアスタッフの不足について等

#### 質疑

→取組については多方面からの様々なニーズはあるが、一つひとつの実現は簡単ではない

→職員室のコーディネーターがない、教職員の地域連携担当職員の法制化の流れも視野

## 2. 審議事項

### ア、中期学校経営方針による具体的取組

#### ・学力向上アクションプラン

担当：学校の状況と地域の実態については、朝食の喫食・睡眠時間と学力の関係について市の学力・学習状況調査によるクロス集計のデータを分析し、家庭の教育力、基本的な生活習慣の確立の重要性について注目している

#### 質疑：

→学力向上に関する指導の目標・方針については、来年度以降見直しを図り、特に学習評価と授業改善の研究に取り組む

→今年度の取組としては、校内授業研究を他教科の研究授業を見合い、様々な視点からの協議を行う

#### ・豊かな心育成プラン

担当：「特別の教科・道徳」について道徳の時間の充実を図り、評価については、道徳の時間に用いたワークシートの振り返りの記述から子どもの変容を見とり、長期休業前面談を活かして伝えていく

#### ・体育健康プラン

担当：体育・健康に関する指導の目標・方針については、体力テストの結果を子どもにフィードバックし、心身の育成について自己評価力の向上と、課題発見を図る

### イ、視察について

・平成30年度の東山田中学校区小中一貫コミュニティ化を見据え、三鷹市の小中一貫校の状況視察を検討

### ウ、その他

・学校運営競技委員研修について

・教員配置についての教育長回答について